

保護者の責任の下でネット上のトラブルから子供たちを守る



4日(金)の授業参観後、音楽室にてPTA講演会が行われました。今回は、メディアコントロールをテーマに、荒尾警察署生活安全課の方を講師に迎えて、小中学生の現状やトラブル回避のための方策について話してもらいました。

年々増加傾向のネット端末の所持率とファーストタッチの低年齢化が顕著であること。便利さとともにリスクが高まっていること。ネット社会と現実社会の違いを知ること。いたずら気分や悪ふざけで行ったことが、犯罪行為になり、罪(侮辱罪や児童ポルノ禁止法違反等)に問われることなど。被害者になるだけでなく、加害者になることもあるので、親子でルールを決めることが何より重要であることを強調されました。さらに、スマホ関連のトラブル時は、すぐに警察に相談してほしいとおっしゃっていました。

さくらだより

ネットトラブルから子供を守る

荒尾警察署の方に来て話をしました

別件ですが警察からの連絡

2021年10月1日から県の条例が改正され、**自転車保険の加入が義務化**されています。自転車といえども、車両として扱われ、接触事故等を起こしてしまえば莫大な損害賠償が課せられることもあります。子供たちも例外ではありません。ご確認をお願いします。



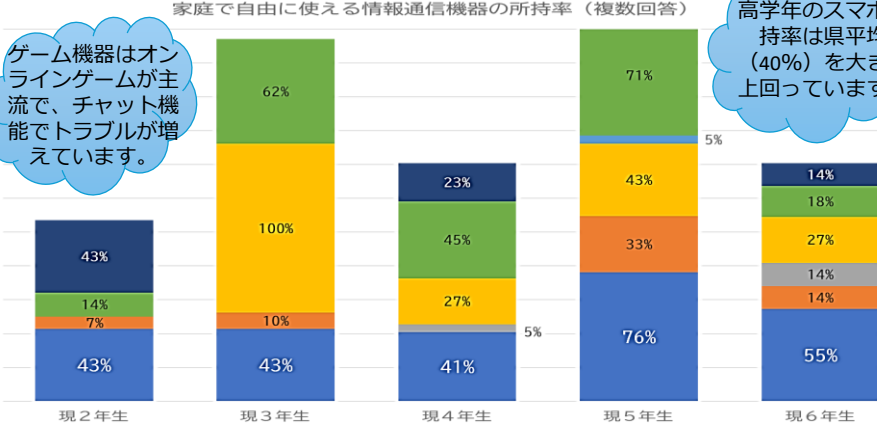
昨年実施された心のアンケート結果から

昨年12月に実施された「心のアンケート(全県下で実施)」の結果から本校のネット端末所持率等の結果をご紹介します。

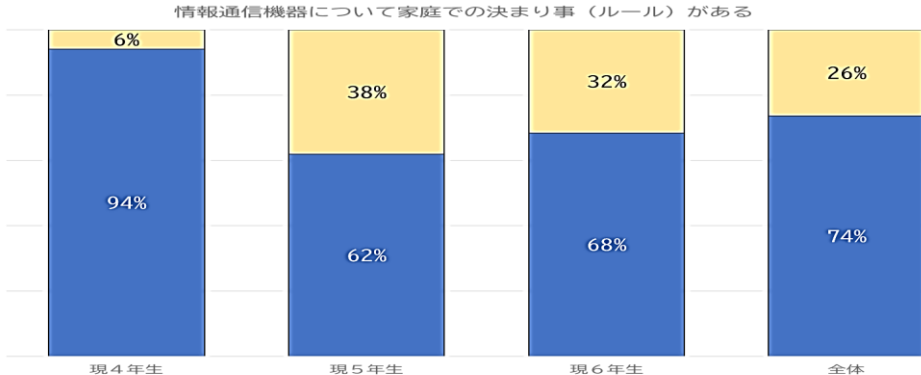
家庭で自由に使える情報通信機器の所持率(複数回答)

高学年のスマホ所持率は県平均(40%)を大きく上回っています。

ゲーム機はオンラインゲームが主流で、チャット機能でトラブルが増えています。



情報通信機器について家庭での決まり事(ルール)がある



【スマホの所有者を教えましょう!】

子供たちが手にするスマホの所有者は誰なのでしょう。ほとんどの子供が「自分のもの」と答えるでしょうが、購入者・通信料の支払いは保護者です。つまり、あくまでも所有者は保護者です。使用させるならルールを決めてからにしましょう。

【買い与えた責任】

ある警察官の話です。未成年の頃、原付バイクを親から購入してもらったとき、父親から「俺の責任でお前の原付を買った。事故を起こすな。他人に迷惑をかけるな」と...。スマホも同じです。スマホを買い与えた責任は誰になるのかを、今一度考えてみてはいかがでしょうか。

※冊子の内容はQRコードから読み込みます。



配付された「スマホに弱い大人の教科書」